

理大 通信

【Ridai Tsushin】

OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE
岡山理科大学 広報誌 【理大通信】

2019.3 Spring

【巻頭特集】

多様で楽しい、
理大数学の世界へ
ようこそ。

理大'S View

【TREND】

「学科のイメージ変わった」
「視野が広がった」自主ゼミで
専門資格の取得を目指す学生たち

【LABO】

八百板季穂研究室

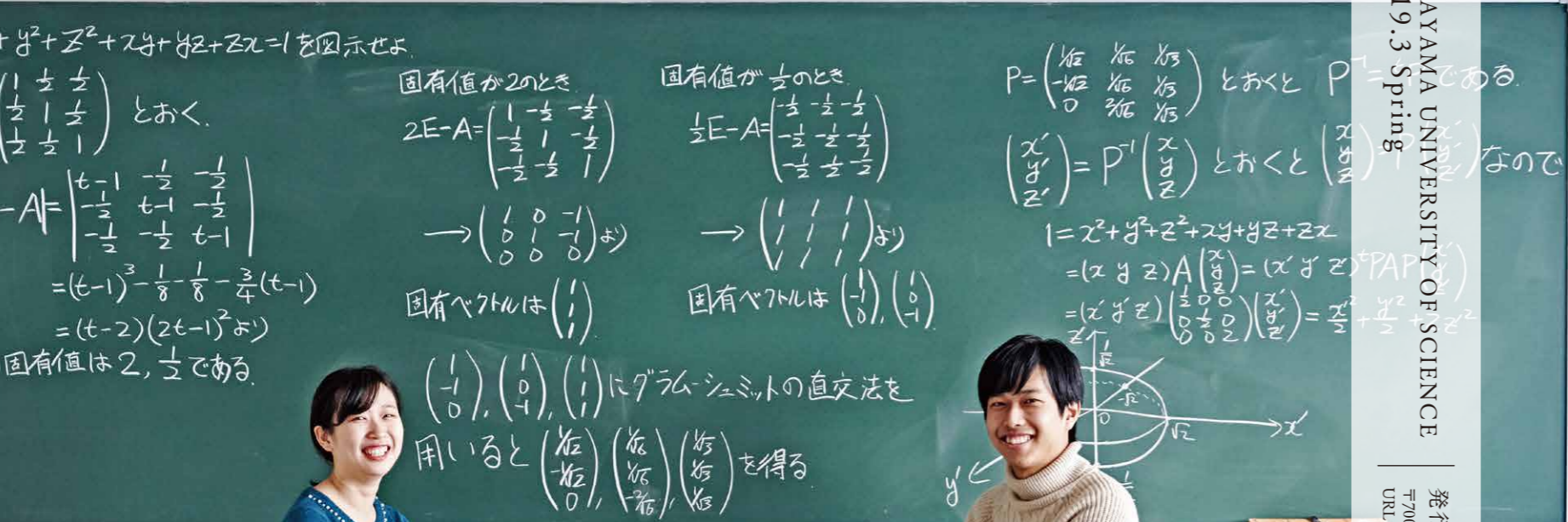
【RESEARCH】

“探究心”こそ、すべて。
教員養成に脈々と受け継がれる理念。

岡山理科大学 広報誌 【理大通信】

OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE
2019.3 Spring

発行 / 岡山理科大学
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1 TEL.(086)256-8412 FAX.(086)256-8452
URL <http://www.ous.ac.jp>



岡山理科大学
OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE

ENJOY SCIENCE!
ボクラ、科学の子。



岡山理科大学
OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE

コミュニケーションフレーズ

「ENJOY SCIENCE!」について

岡山理科大学では、2016年に教育学部、2017年に経営学部が新たにスタート。2018年からは、獣医学部を開設し、7学部体制となりました。コミュニケーションフレーズには、大学の「個性的で魅力ある研究」と「充実した教育」のもと、学生が好奇心と探究心を常に刺激される学びの環境の中で、思う存分に自分を高め、新しい世界を広げてほしいとの願いが込められています。

表紙の二人は、理学部基礎理学科4年の
和田千鶴さん(左)と岩本健司さん(右)
= C3号館6階・基礎理共同大ゼミ室で

在学生についての掲載内容は2019年3月時点の情報です。

理大 通信

【Ridai Tsushin】
OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE

多様で楽しい、
理大数学の世界へ
ようこそ。

実は数学者の中にも、計算式を考えるのがあまり得意ではない人もいます。そんな人は頭の中で絵を描きイメージで考えることが大好きです。もちろん一方で、難解な「数式」を使いこなしている数学者もいる訳です。このように、この学問のよいところは、誰もが必ず「それぞれに合った数学」を見つけられるということです。理大の教員たちの研究領域も、実にさまざま。まさに、数学的面白さが、この学び舎に凝縮していると言ってよいでしょう。

ただし、大学で数学を学ぶのであれば、1、2年次のうちは、外国語をアルファベットから勉強するように、「数学語」とも言うべき数学の「文法」をしっかりと身につけなければなりません。この時期に着実に基礎を築いてはじめて、数学本来の楽しさに触れることが許されるからです。そう聞くと苦手意識を持つ人もいるかもしれませんが、理大なら大丈夫。教員陣が懇切丁寧に、その魅惑の世界の入口まで教え導いてくれるのですから。

数学ほど「なるほど!」と心から納得でき、「分かった」ことに対して感動を覚える学問はありません。しかもそれには、大掛かりな器具や化学物質などいりません。自分の頭の中だけで実現されるのです。とは言え、そうした数学的思考は、他者と多く関われば関わるほど研ぎ澄まされていくのもまた、数学の真理。つまり、数学の世界では「引きこもり」ではだめ。なるべく多種多様な領域を知り、教員や友人と親しく意見を交換し合うことで実力を伸ばすことができるのです。

理大で数学を学ぶ学生の多くは教員志望です。多様な数学分野を網羅し交流できる理大は、そうした数学教師としての「総合力」を高める場でもあります。「それぞれに合った数学」を大いに楽しみ、将来に活かしましょう。

数学は堅苦しい。数学は難解だ。

そう思い込んでいませんか?

見た目は確かに、

複雑な記号や数式が並び、

そう感じても仕方ないかもしれません。

だからと言って、敬遠するなかれ。

ちょっとしたルールを覚えて、

それを駆使するだけで

無限の世界が広がるのが

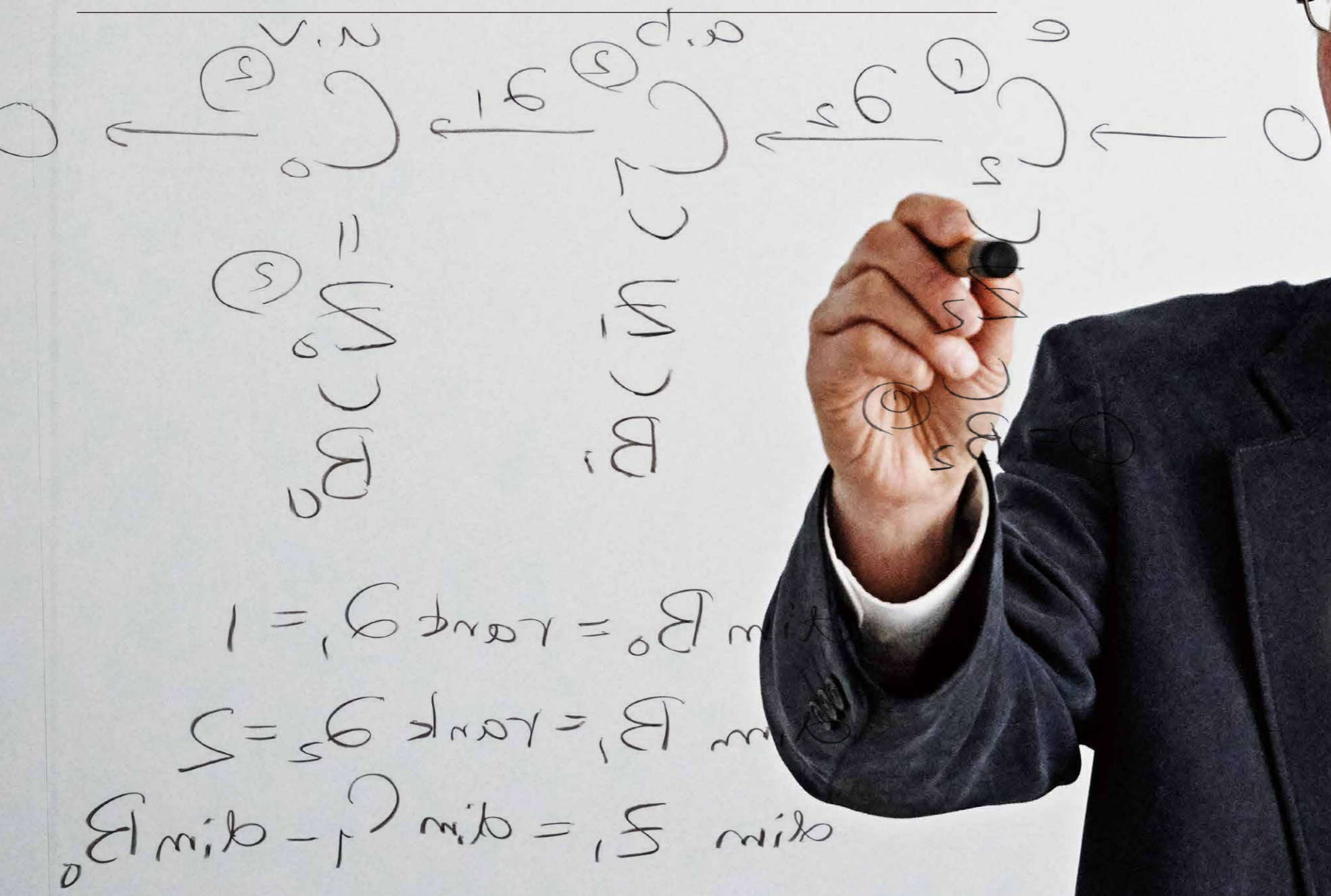
数学の世界だからです。

数学って実は、かなり面白い。

理大には、そう実感させてくれる

学び、支援、環境が用意されています。

enjoy
math!

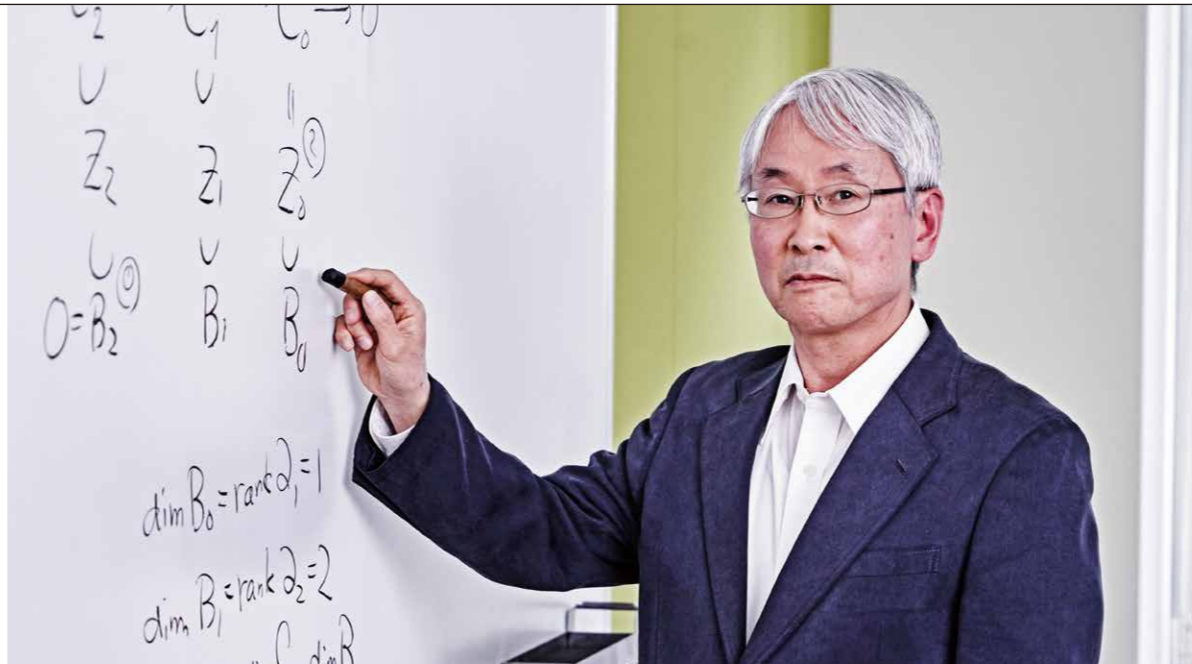


幾何学分野

図形が織りなす「謎」をひも解き、
新たな事実を証明したい。

理学部基礎理学科
山崎 正之 教授

東京大学理学系研究科数学、バージニア工科大学大学院
数学研究科修了後、ミシガン大学、城西大学を経て、岡山理
科大学理学部基礎理学科の教授に着任し現在にいたる。



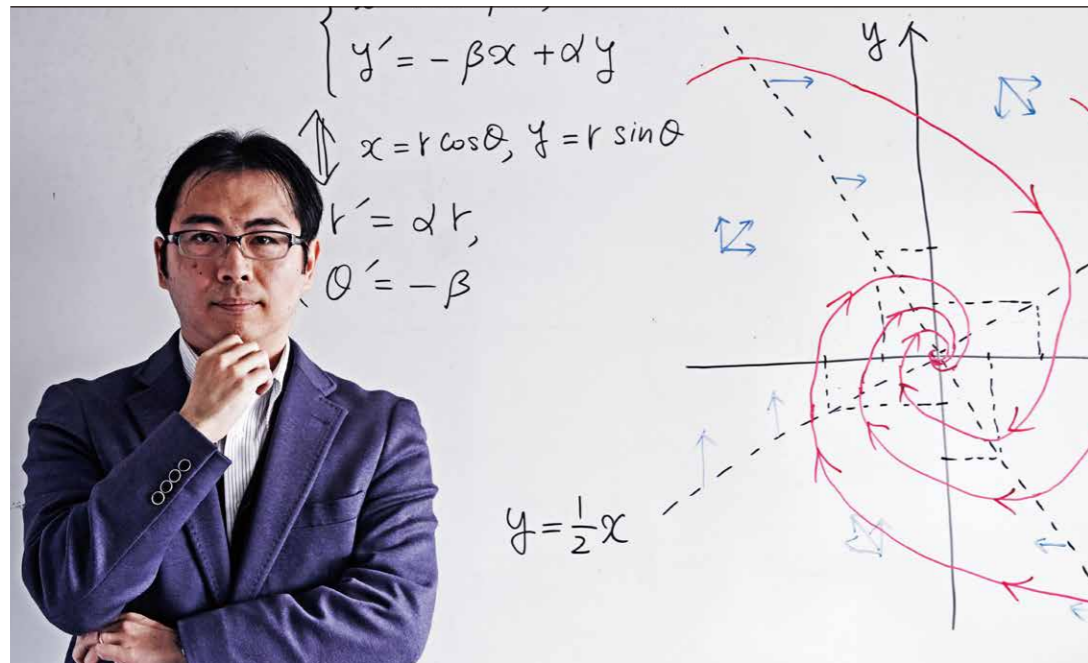
私は30年来、位相幾何学(トポロジー)を研究
しています。トポロジーとは大まかには図形の分
類を目指す学問で、そのうち特に「手術理論」に
興味があります。ここでいう「手術」とは、図形を
「切ったり」「貼ったり」する手法のこと。この手法
を使ってアプローチされてきた有名な問題に「ポ
ンル予想」がありますが、荒っぽく言うと、次元およ
び基本群とよばれる量が等しいような「非球面
的図形」XとYは必ず同じ「図形」であるとい
うものです。いろいろなXに対してこの定理が成り
立つとすることが少しずつ分かってきています。反
例は見つかっていません。
ただ、手術理論は学部生には難しすぎるので、
卒業研究には、もっと親しみやすい問題を取り上
げています。今年度の例を紹介しましょう。昨年
(2018年)、長年未解決の幾何学の難問「平
面の彩色問題」に進展があったというニュースが世
界を駆け巡りました。距離1の2点は必ず異な
る色で塗るという条件の下で平面を塗るには、何
色必要だろうかという問題です。3色では不可
能だということが昔から知られていましたが、今
回、4色でも不可能だということが証明されたの
です。驚くべきことに、これを証明した人物は生
物学的老人学の研究者。数学は趣味。このよう
に、図形を扱う幾何学には比較的敷居が低い分
野もあります。今年のゼミ生も英語の論文を読
んで「分かる」喜びを感じてくれたことと思いま
す。自分自身も常に新しい課題を見つつけようと心
がけています。

解析学分野

「答えのない真理」を突き詰め、
いつかは数理モデルで社会に貢献を。

理学部応用数学科
鬼塚 政一 准教授

鳥根大学総合理工学研究科修了。その後、鳥根大学総合
理工学部の数理分野教務職員、都城工業高等専門学校
講師を経て、岡山理科大学理学部応用数学科の講師。現
在は准教授として教鞭をとる。



純粋数学の一つである解析学が私の専門分野
です。解析学には微分積分が深く関係してお
り、その中でも、特に、微分方程式(微分を含む
方程式)の解の動きを調べることに取り組んで
います。ただ、二次方程式などとは異なり、解は
定数ではなく関数です。関数の挙動は、独立変
数の値で多様に変化し、また必ずしも解けると
は限りません。私のメインテーマは「解くことの
できない方程式」を追究する事とも言えます。
とは言え、やみくもに「答えのないもの」に取
り組んでいる訳ではありません。特に、より微細
な関数の挙動を定義できる ϵ - δ (イプシロン・
デルタ)論法を用い、解のおおよその軌道イメージ
を想定。将来的には、私が得た定理や理論を駆
使し、数理モデルへの応用を考えているところ
です。例えば、捕食者・被食者(ライオンとシマウマ
など)の関係性を微分方程式で表し、種の絶滅
を防ぐ理論を構築するといったこと。そうした、
現実の世界で起きているさまざまな現象を解
き明かし、社会に貢献できればと考えています。

解析学の面白さは、直感(イメージ)と、それ
を裏付ける数学的理論の両方を満たすことが
できるところ。数学は、答えが一つしかないから
面白くない?その認識は大いなる誤解です。無
限の世界が広がるのが数学の魅力。その楽しさ
を、今後も追究し続けたいと思います。

解析学分野

数学的構造の美しさに魅せられ、
「解のふるまい」に力を注ぐ。

理学部応用数学科
田中 敏 教授

愛媛大学大学院理工学研究科博士課程、博士(理学)の学
位を取得後、八戸工業高等学校講師を経て講師として
岡山理科大学理学部応用数学科へ。その後、准教授、教授
となり現在に至る。日本数学会関数方程式論分科会「第五
回(2013年度)福原賞」受賞。



構造に出くわす場合があります。同じパターンの
図形の連続で構成されているフラクタルもその
ひとつです。
フラクタルは、その全体と一部分が完全に合致
している「自己相似性」で成り立っていることが
多いです。つまり、どこをとんでも小さく切り
取っても、全体とまったく同じ形で抽出するこ
とができます。微分方程式のフラクタル構造をも
つ解についての研究は、私のテーマの一つです。
それは、その構造や見た目の美しさ故と言える
かもしれませんが、美しく、新しい数学を発見す
る。これからも、それが目標です。

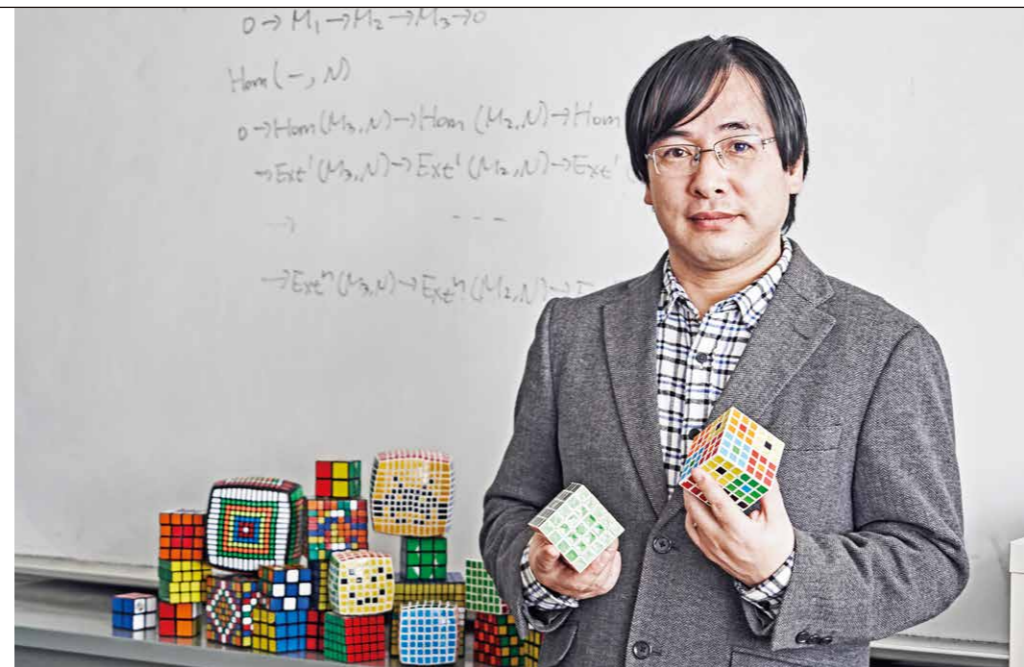
ニュートンやライプニッツらをはじめとする多
くの数学者によって考案された微分。これは、関
数の変化率を表すもので、物が上から下に落ち
る、あるいは、惑星の運動といった、何かが変化す
る際のさまざまな現象を微分の関係式「微分方
程式」で表現することができます。今では、微分
方程式は、自然の法則から経済システム、天気予
報まであらゆる分野の数理モデルに応用されて
います。
ただし、私が専門にしている研究は、あくま
で基礎理論の分野。微分方程式を満たす関数
である解は、ほとんどの場合、三角関数や指数
関数などのよく知られている関数で表すことが
できません。そこで、解がどのような性質をも
っているのか。例えば、解の振動の幅といった性質、
「ふるまい」について研究しています。その過程
で、感動を覚えるほど美しく、面白い数学的な

代数学分野

すべての操作は代数学に通ず。
そのシンプルで楽しき世界に遊ぶ。

理学部基礎理学科
荒谷 督司 准教授

岡山大学大学院自然科学研究科修了。京都教育大学、奈良教育大学、立命館大学、大阪電気通信大学の非常勤講師を歴任。徳山工業高等専門学校准教授を経て、岡山理科大学理学部基礎理学科准教授。



六面体上でランダムに散らばったカラーパーツを、二面ずつ統一した色に戻していく「ルービックキューブ」。あるいは、1つ空白がある16に区切った枠のなかで、15までの番号が振られたピースをスライドしながら配置を考える「15パズル」。かつて、世界中で爆発的に流行った玩具ですが、実はどちらも代数学の「群論」の考え方がそのベースとなっています。

群論は代数学の基本的な考え方のひとつで、簡単に表現すると、「何らかの操作の集合」ということとなります。その操作ルールはシンプルで、「操作を行う際のカッコの順番は変えてもよい(結合法則)」「何も変えない」「元に戻せる」の、全部で3つ。この並べ替え操作の集合体を群と呼びますが、さまざまな分野に応用されています。例えば、化学式を定義する場合などは付け替え操作が必須となるため、群論の理論が大きいに活用されているといったようなことです。このように、私が知らない事例も含め広大な範囲で着実に活かされている。それが群論です。

代数学の本質は、「正しい」とされていることを積み重ね、新しいことを証明していく作業につきます。私の専門は群論および、さらに操作条件が加わった環論の領域ですが、条件しだいで無限に可能性が広がるのがそれらの魅力。今まさに、その世界を楽しみながら追究しているところです。

岡山理科大学の
ホームページは
こちらから



SA制度と学習支援ルーム。 応用数学科の 「サポート力」とは。

毎年、応用数学科新入生の約9割は教員を目指しています。そこで今回は、SA(チューデント・アシスタント)制度や学習支援ルームといったサポート体制に注目。教員志望の学生を中心に、大きな効果をもたらしている現状を紹介します。

SA制度の進化と深化を目指し 学習支援ルームを開設

もともと、理大の応用数学科には、先輩が後輩を教える気風が醸成されていることが大きな特徴でした。これは、すでに導入されていた、SA制度の効果であると語るのは、応用数学科で教鞭をとる松村先生。

「私は、2015年から理大に着任した際、1時間半の授業のうちの後半の30分を演習の時間に回すことにしました。そのときに問題を出すと、解けない学生を他の学生が教えるといったことが、自然と行われていることに感心したのを今でも覚えています。SA制度は、50人ほどの1年生のクラスで行われる演習時間に10人弱の4年生が交じり、個々の質問に対応し学習をサポートするシステム。その効果が「教え合う」という習慣につながっているのだと感じました」

教員としての資質向上とともに 学生の新たな気づきにも期待

開設されて1年半が過ぎた現在、学習支援ルームでは上級生が下級生を教える姿が日常の風景になっていきます。

「教室に常駐している上級生は、2、3人程度。一方、質問をしにくる1年生は、単独のことあれば友達同士で連れだってくる場合もあります。複数同時に教えたり、異なる質問にも丁寧に答える必要があります。教員に求められる教える力は、成績がよいこととイコールではありません。SAや学習支援ルーム両方で教える経験は、そういった力を身に付け成長する絶好の機会になっていると思います」と語るのは、瓜屋先生。同じく、学生の成長を真近で見ている



【左】安武 郁也さん/3年 ●学習支援ルームで何度も質問に答えているうちに、図書館などの場所でも交流するようになった下級生がいます。こうして、お互いに高め合うことで、随分コミュニケーション能力も身につけ、話下手だった性格も克服することができました。

【中】大塚 結穂さん/3年 ●SAと学習支援ルーム、両方を経験して学んだのは、質問があっても手を挙げられない人がいるということ。自分から積極的に話しかけたりすることで、そんな下級生も自ら質問できるように。皆の成長を実感でき、教職につながる経験ができました。

【右】濫谷 真央さん/3年 ●3年生で学習支援ルームのスタッフに応募したのは、1年生のときに教えてもらったSAの先輩の姿が「カッコいい!」と感じたから。同じ下級生が何度も来てくれる質問してくれるのがやりがいにつながり、自分自身の成長も実感しているところです。



松村 朝雄 講師
理学部応用数学科
専門:代数的位相幾何学



瓜屋 航太 講師
理学部応用数学科
専門:偏微分方程式論



柴田 大樹 助教
理学部応用数学科
専門:代数群及びリー代数、表現論

そのよき伝統を、さらに継承発展させようとして開設されたのが学習支援ルームです。これは、授業が終わった3年生がC2号館の学科ゼミ室に常設で開設されている「学習支援ルーム」に待機し、訪ねてくる後輩たちの質問に答えるというもの。こうした制度を追加した背景には、応用数学科の特徴が大いに関係しています。

「学科新入生の9割は数学教員を志望する学生です。教員は、経験がものを言う世界。まず、教える経験がしっかり積み重ねてほしいというのが目的のひとつです。開設にあたっては、学生に「人に教えるという仕事」に対する責任感を持ってほしいと、アルバイト料を報酬として支払うことにしました。さらに言えば、そもそも数学は、一人で完結するのではなく他者との対話によって能力が磨かれる学問。数学的思考を、より高めてほしいという希望もありました」と、松村先生。こうして、2017年9月から学習支援ルームがスタートしました。



【右】藤本 紘平さん/4年 ●自分が理解できたときのように説明すれば、相手は理解してくれるはず。最初は、そんな気持ちで臨みましたが、人によってアプローチを含めて、「まず行動してみる」大切さを実感できました。

【下・左】高木 陽登さん/4年 ●教職を目指していたのにも関わらず、人に教える経験をしていないことに焦りを感じたSAに応募。4年生からの経験でしたが、目標であった地元・岡山の教員採用試験にも合格。教員としての力が身についたのは、SAを経験したからだと思います。

【下・右】大城 陽夏さん/4年 ●3年生で学習支援ルームの活動に参加したことで、4年生のSAのときには教え方も上達。「これ分かります!」と理解してくれることでやる気がわき、より自信を持てるようになりました。自分から、積極的にコミュニケーションをとれるようになりました。

た柴田先生は、教える側、教えられる側双方に大きなメリットがあると実感しています。「まず、教える側は、同じ問題に対する「分からない」が、学生それぞれで違うと言ったことを理解できるのが大きな利点。教えられる側も、今まで理解できなかったことが分かることで、相手に正確に伝わる質問の仕方考えられるようになります。こうした経験は、教員と生徒という両方の立場を体験として理解することにつながり、実際の教育現場でも大いに役立つと考えます」と、力説します。

教員としての資質を伸ばすことを主な目的として始まった学習支援ルームですが、一方で、効果はそれだけではないと、松村先生。学生が、教員も想定していない「新たな気づき」を得ることを期待しています。「理大の応用数学科には、教員・学生を含めて数学に対する情熱が満ちあふれています。そうした、思いっきり数学を楽しめる環境で人に教える、教えられることを経験することで、「数学が理解できる自分はずい!」と、自信を持てるようになるのが理想。しっかりと自己肯定感を持って社会に出てほしい。そう願っています」



【TREND】 理大'S View

「学科のイメージ変わった」
「視野が広がった」
自主ゼミで専門資格の
取得目指す学生たち

獣医保健看護学科

わが国で52年ぶりに開設された獣医学部(今治キャンパス)には獣医学科と獣医保健看護学科の二つの学科があります。獣医師を目指す獣医学科に比べて、獣医保健看護学科はその名称から「動物看護師を目指す学科」と受け取られがちですが、それだけではないのです。高度な知識と技術を身に付けて獣医師と協働する「獣医関連専門家(VPP)」の養成を大きな目標に掲げています。

そのVPPの卵たちが、製薬企業などで実験動物を扱う「実験動物1級技術者」の取得を目指して、毎週、自主的に勉強会を開催しているのが「SLATクラブ」(SLATは実験動物1級技術者の英語表記の頭文字)です。メンバーは獣医保健看護学科の女子ばかり9人。昨年11月から毎週水曜の5コマ目、獣医学教育病院の教室で、市販のテキストを使い、メンバーが交代で講師を務めます。これまでのテーマは「生命と生命現象」「骨格と筋肉」「呼吸器」「循環器」「泌尿器」「生殖器」「神経系」「内分泌系」などで、講師役が問題を出して、他のメンバーが解答していくというスタイルです。

彼女たちの話を聞いてみると、入学前と入学後では学科のイメージがかなり変わったようです。メンバーの声を通して、獣医保健看護学科の「今」を紹介します。



「進路が大きく変化しました」

部長の佐々木祐佳さんは、もともと動物看護師を目指し、専門学校を志望していましたが、両親に「しっかり学んでおいで」と言われ、獣医保健看護学科に進学しました。「授業内容は難しくとても忙しいですが、専門学校に行っていたら学べなかっただろうなと思うことが、たくさんあります。看護の勉強だけでなく、動物の福祉や形態機能学などのさまざまな科目を勉強することができて、将来に対する視野が広がりました」と目を輝かせます。

さらに「動物看護師を目指していましたが、福祉の授業を受けて、実験動物や福祉について考えてみたいと思うようになり、進路が大きく変化しました。いろんな分野の授業を受けられることは、この学科の良いところだと思います。そ

れと同時に学科の名前は獣医保健看護学科なのに看護以外のことも学べるんだと感じ、学科のイメージが変わりました」と話しています。

さまざまな分野の教員が充実

続いて、副部長の堀野怜奈さん。「いろんな分野の先生がいて、一人ひとり全く違う分野をやっている中で、自分が知りたいことを必ずどの先生かが知っている。この素晴らしいところだと思える。この自主ゼミも、皆でやると頭に入りやすい。自分が教える側になったらやっぱり、勉強しないといけないので、必然的に入ってきます」

「学科名の印象と全く違います」 「ここへ来て良かったです」

海外での活動も目標に

竹中渚さんも同じです。「名前が獣医保健看護学科だから、絶対に将来は看護師になるしかないと思っています。だから卒業したら看護師になるのかなと思っていたけど、ここでいろんな勉強をして、看護師にもなれるけど、他にもいっぱい選択肢があることが分かりました。将来何になるかはまだ決まっていますが、大学生活でできることをやって、その中から一番自分に向いて

いることをやりたいと思って、このクラブに参加しました。楽しいです。一人で勉強するよりは絶対にいいと思います」

西原祐希さんは「オーストラリアなどで野生動物の保護施設で働きたいと思っています」と将来像を描いています。

メンバーの皆さんは、それぞれの目標の実現に向けて、懸命に励んでいます。VPP1期生たちが第一線で活躍するのが大いに楽しみです。



SLATクラブのメンバー(カッコは出身府県)
【上段・左から】石野 葉月さん(愛媛)／副部長・堀野 怜奈さん(千葉)／大和田 一雄 教授／部長・佐々木 祐佳さん(福井)／西原 祐希さん(大阪)【下段・左から】登口 樹さん(愛媛)／竹中 渚さん(奈良)／平岩 史江さん(愛知)／山根 優真さん(愛媛)／河野 想路さん(愛媛)

VPP(Veterinary Para-professional=獣医関連専門家)とは
獣医師と協働し、獣医の法定機関から認可された幾つかの獣医業務を遂行する権限を持つ人物と定義され、「国際獣疫事務局(OIE)」が、その養成に取り組む必要があると提言。VPPには獣医看護師、獣医技術者、地域の動物衛生従事者、食品検査官などが含まれ、特に動物の疾病の監視と報告、動物の疾病対策の実施に関する重要な役割を担います。

● 3年次から選ぶアドバンスト(上級)コース ●

ライフサイエンス分野 人と動物に関わる獣医学の知識を活かし、「創薬」などのライフサイエンス分野で活躍。
公共獣医事分野 医療と獣医療は密接に関連。感染症の拡大防止や食の安全など人の健康にも貢献。
獣医療看護分野 画像診断などの高度先端技術で獣医療連携高度獣医療並びに高度獣医療看護を実現。
岡山理科大学が養成するVPPが学ぶ学問分野
基礎獣医学
動物看護学
野生動物学
生命科学
生態学
畜・水産学
公衆衛生学

取得できる資格・卒業後の進路

4年制の大学ならではの多彩な資格が取得可能です。

(受験資格) 実験動物1級技術者	(受験資格) 認定動物看護師	(受験資格) 家畜人工授精師 (任用資格) 食品衛生監視員 食品衛生管理者
創薬・医療機器開発研究	人と動物の生活の質向上	食の安全・感染症対策
・製薬会社 ・医科学研究機関 ・医学部動物施設 ・動物実験受託研究施設 ・バイオ科学研究機関 等	・動物病院 ・動物臨床検査機関 ・動物愛護管理行政 ・ペットフード企業 ・ペットケア関連企業 ・ペット保険 ・獣医関連出版企業 ・動物園・水族館 等	・畜水産振興企業・牧場 ・食品関連企業 ・衛生管理関連企業 ・国家公務員 ・農林水産省・環境省 ・厚生労働省等 ・地方公務員 ・畜産職 ・野生動物管理行政 等

【LABO】

理大'S View

やおいたきほ 八百板季穂研究室

今回のリカジヨは工学部建築学科の八百板季穂准教授の研究室です。歴史的な町並みや農村景観の保全に向けてグローバルに活躍する先生と、4月から新社会人となる4人の女子学生を紹介します。



工学部建築学科
八百板 季穂 准教授



工学部建築学科4年
濱口 結衣さん

工学部建築学科4年
川合 春菜さん

工学部建築学科4年
川上 風香さん

工学部建築学科4年
梶谷 友愛さん

世界遺産・地域遺産の 研究を通じて、学生とともに 課題解決に挑戦する。

「遺産というのは何百年にもわたって、その時々の人たちが守ってきたものなので、地域の人たちに対して意味をもたらし続けなければ存続できない。その関係性を築くとともに、遺産をまちづくりに活かすには、経済活動にも貢献できるような仕組みをつくるのが大切です」

1978年、神戸市生まれ。博士(観光学)。専門は、文化遺産マネジメント。コミュニティを基盤とする遺産保全で、遺産保全、観光開発、コミュニティ開発の3要素が相乗効果的に推進されるための仕組みを模索。イコモス(国際記念物遺跡会議)やJICA(国際協力機構)とも連携して世界遺産の保全活動に取り組んでいるだけに、一言々に熱がこもります。特に南西太平洋のフィジーで、19世紀の植民地建築が残る世界文化遺産「レブカの歴史的港湾都市」には、毎年一度は足を運んで、住民たちと保全に向けた話し合いを続けています。

レブカを訪れたのは世界遺産に指定される7年前の2006年。恩師の北海道大学・観光学高等研究センターの西山徳明教授や本学建築学科の江面嗣人教授らとともに基礎調査を進め、ユネスコの諮問機関として世界遺産登録の審査などを行うイコモス(国際記念物遺跡会議)に提出する資料作りにも協力。JICAの草の根技術協力プロジェクトを実施し、まちづくりに取り組んだ。

「木造建築が多く残っているので、日本でやってきた町並み保存の技術、知識、経験が応用で

高校時代から建築一筋

まずは五十音順で梶谷友愛さん。岡山県立岡山工業高校時代から建築一筋の道を進んできました。卒業論文では、福島・大内宿の住民意識調査とともに建物の用途を分析、観光業の発展に伴い伝統的な空間構成と居住形態がそぐわなくなっている点をデータで明らかにし、その解決策をまとめます。

4月からは岡山市の住宅メーカーで、初の女性現場監督を務めることになっています。「最初のうちにはしっかり吸収して、男性陣に負けられないように、しっかり資格も取って、力強く頑張っていきたいと思います」

人が集まる空間をつくりたい

川合春菜さんは、観光業が盛んになっている沖繩・竹富島で、建築に伴う景観保全のルールが順守されているかどうかを調べ、あるべき姿を卒論としてまとめたいです。行政ともタイアップした研究で、住民の会議にも参加して、地元のままさまざまな考え方を聞き取りました。「すごく新鮮で面白かった」と振り返ります。

岡山県立井原高校出身。子どものころから「人が集まる空間を自分でつくりたい」と考えていた夢をかなえて、4月からは岡山市の住宅メーカーで設計を担当します。「お客様が本当に住みたいと思える家を建てたいです」



大内宿の全景



【上】レブカの町並み
【下】フィジーの住民たちとのワークショップ

きるだろうと考えて、深く関わることになりました。JICAのプロジェクトとして、遺産の保全と観光プログラム作成にも携わり、日本の宮大工の協力を得て修復の技術指導を行う一方、観光ガイドの育成にも努めました。

現在ではフィジーの国立大学と連携し、保全に向けた人材づくりにも取り組んでいます。

「やっぱり、地元の人たちが自分たちで考えて、自分たちがどうしていくのか、ということを決めて文化財を守ってほしいというのが一番ですから」

レブカのほか、海外ではエチオピアの世界自然遺産「シメン国立公園」、ペルーのインカ帝国以前の都市遺跡「アエラップ」の保全に携わり、国内ではいずれも重要伝統的建造物群保存地区に選定されている福島県南会津郡の江戸期の宿場町「大内宿」、沖繩県・八重山列島の「竹富島」などの景観保全活動にも取り組んでいます。

そんな八百板先生について、学生たちからは「何でも親身に教えてくれ、とても頼りにしています」との声が上がります。

「理大は頑張る学生が多いですし、はじめです。私の場合、相手がいる地域で一緒に調査をするので、地域の人の顔が見えると、学生もやる気を出してやってくれます。一緒に地域、社会が抱える問題を共有して、課題解決のために学生たちが頑張ってくれているのがうれしいです」。眼鏡の奥の柔らかな瞳が、キラリと輝きます。



【上】竹富島での調査風景
【下】大内宿で住民から聞き取り調査

カフェの空間をつくる仕事が好き

「カフェの空間をつくる仕事をしてみたい」建築学科に入った川上風香さんの卒業設計は、川合さんと同じ竹富島が対象地。「景観保全のルールがあつて、新しい住民が住むのが難しい状況にある中で、周囲の景観にマッチし、新住民が移り住んで来やすい住宅の設計に取り組みました。

出身は岡山県立総社南高校。4月からは広島県福山市の工務店に勤務。「営業もしながら設計も担当する仕事です。最初から最後までお客様の意見を聞きながら進めていけるので、すごく楽しそうです。頑張ります」と張り切っています。

長く住んでもらえる家を建てたい

濱口結衣さんは、瀬戸内海の「現代アートの島」として知られる犬島を卒業設計の対象地に選びました。「観光客は訪れても動線が一つになっていて、滞在している時間がすごく短い。島の人口も減少している。アーティストに住んでもらい、島の魅力とアートを発信してもらえたら」というのが濱口さんの問題意識です。卒業設計の優秀賞、さらに岡山県建築士事務所協会からも、「第14回優秀卒業作品表彰・優秀賞」を受賞しました。

岡山県立玉野高校出身。自宅を建て替えた際に目にした設計の仕事が「面白そうで」建築学科に進み、4月からは岡山市の住宅メーカーに勤務。もちろん設計を担当します。「家がほしいと思っただけの人に、長く住んでもらえる家を建てたいと思います」

【RESEARCH】 理大'S View

“探究心”こそ、すべて。 教員養成に 脈々と受け継がれる理念。

これまで、数多くの優秀な教員を送り出して来た理大。2019年4月の教職支援センター発足により、ますますその環境が整うことになりました。そんな理大の教員養成の現状や期待について、4名の指導者が熱く語ります。

岡本 弥彦 教授
(理学部動物学科/
教職・学芸員センター長)
理科教育、環境教育、ESD
担当



黒崎 東洋郎 教授
(教育学部
初等教育学科長)
算数教育を中心に教育実
践学などを担当



藤本 義博 教授
(理学部生物化学科)
理科教育のほか教職・学芸
員センター教職課程を担当



福田 博人 助教
(理学部応用数学科)
数学教育のほか教職・学芸
員センター教職課程を担当



教員養成に強い理大

理数系の教員を輩出し続け 少子化のなか採用人数を増やす

岡本… 本学には、3年前の2016年4月より教育学部が開部しましたが、それ以前より、全ての学部学科(獣医学部は除く)で教員免許状の取得が可能です。免許教科は中学校・高等学校の数学と理科、高等学校の公民、工業、情報、中学校の社会、技術です。そのため、伝統的に教職課程を履修して教員を目指す学生が非常に多いのが特徴です。

藤本… しかも、中学校の教員を数多く輩出してきているのも際立った特色です。全国的に、教員養成系の学生が小学校と高等学校の教員を志望する傾向があるため、全体として中学校の教員が手薄になっています。そこを埋める人材を理大が担っていると考えるのではないのでしょうか。

引き継がれる理大遺伝子

すべてに貫かれる“探究心” その精神が学生を教員へと導く

岡本… これまで、理大卒業生の総数は、のべ5万人ほど。そのうちの約5000名が教職に就いています。10人に1人は教員という計算になりますね。そのため、特に岡山県下の教育実習受け入れ校には、必ずと言ってよいほど本学の先輩たちがおります。さらには、私たちが日ごろお世話になっている教育委員会などでも、たくさん卒業生が活躍している様子に触れることができます。

福田… 理大の教員志望学生の場合、数学の成績自体が飛び抜けて高い訳ではありませんが、「絶対に教員になりたい」と、ものすごく強い熱意を持って入ってきます。そんな彼らに、なぜ理大に来たのかを聞くと、ほとんどの場合、理大の卒業生である高校の先生から熱心に勧められたからと答えます。こうして、教員を地域に次々と輩出する好循環が生まれていると感じます。

藤本… 理大の遺伝子が連綿と継承されている、ということでしょうか。私も、理大卒の教員は、自分たちの仕事に対して熱い情熱を持っている方が多いと感じます。私が以前、文部科学省の調査官などを務めていたときに、全国の学校を回って現場の教員と直接お話をする機会がありました。その際、工夫のある新しい形の授業を提案をすると、「ぜひやってみよう」と目を輝かせて賛同してくれるのは理大出身の先生方。そんな印象があります。

黒崎… 教育学部には、初等教育学科、中等教育学科(国語教育コース/英語教育コース)2つの学科の、1年から3年までの各学年で「探究ゼミ」という授業を設けています。これは、指示待

岡本… 毎年、200名ほどが教員免許状を取得して卒業し、ストリートで採用試験に合格した学生20〜30名ほどを含み、70名をこえる卒業生を教壇へ送り出しています。朝日新聞出版発行「2019大学ランキング」における教員採用部門(中学校)では全国9位の順位でした。教員養成系の大学以外では、驚異的な数字だと思います。

福田… さらに言及すると、岡本先生がおっしゃった大学ランキングは、全教科を合計した教員採用数の順位。ほぼ理科と数学で勝負している大学としては、賞讃されるべき数字です。現在は少子化がほとんど進行し、どの大学も学生数が減っている現状にありますが、そんななかでも教員採用数が上昇していることに対しては、素直にすごいことだと思えます。

黒崎… 教育学部は、初等教育学科は小学校教員養成を、中等教育学科は国語と英語の教員養成を目的に新設されました。2019年度に完成年度を迎えるため現時点では実績はごい

ち族的な態度ではなく、学生が自ら企画して行動するということを目的としたゼミです。互いの意見を言い合う訳ですから、当然、学生同士で不協和音が発生することも多々あり、涙目になる学生もいます。でも、その状態は指導側としては願ったり叶ったりです。自分たちで困難を克服し乗り越えることで、教育現場で起こるトラブルを回避する術や他者と協働する力を自然に身につけていく訳ですから。

岡本… おっしゃる通りです。もともと、こうした探究ゼミは、これまで理大が長年追究してきた「探究心」の理念そのもの。教育学部を開設する際にも、こうした理系的思考の授業を入れようということを取り入れられました。技術者養成の精神が、文系の教育学部においても引き継がれているということですね。

藤本… これはまさに、本学の建学の理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という言葉を体現していると言えるでしょう。私が、理大で教育者になりたいと思うきっかけとなった理念が、教員養成にも脈々と継承されているのです。

サポート体制の充実へ

教職支援センター発足で より手厚い支援が可能に

岡本… 本学ではこの4月から「教職支援センター」が発足します。これにより、これまで教育学部と他学部の教職課程で別々に行っていた支援活動が統一され、より全学的な教員養成の環境が整うこととなります。さらなる手厚いサポート体制をとることができるようになるのです。

黒崎… 統一的な支援体制が整うということで、センターには大いに期待しています。一方で、これま

ませんが、小学校教育実習を経験した3年生は実習先から高評価を得ています。全員が80点以上をもらっており、実習を受けた学生のアンケートでも、6割以上が「ぜひ教員になりたい」と回答。実際の採用試験ではどのくらい合格者数が出るかわかりませんが、現時点では、非常によい感触を持っています。



で教育学部では行われていなかった、教員採用試験を想定した面接指導や模擬授業などをどう実施していくのかなどの課題もあります。それを解決するため、私たち教育学部としては、できるだけ密に連携してセンターの内容を充実させていきたいと思っています。

福田… 確かに、教育学部とそれ以外の学部との連携強化は、センターを成功に導くには不可欠です。ただ、課題ではあります。逆に大いに期待できる部分でもあります。いずれにしても、理系・文系の異なる価値観、考え方を持つ者が直接交流する場ができるのは素晴らしいこと。学生にはぜひ、採用試験の勉強などで同じ志を持つ仲間たちと切磋琢磨し、教員としての資質を磨いてほしいと思います。

藤本… 繰り返しになりますが、理大の教員養成において最も大切なのは探究心です。そうした教育のもとで4年間を過ごし、理大の遺伝子を引き継いでほしいと思います。センターの発足によって、ますますその環境が整ったと言えるのではないのでしょうか。私もその一員として、学生を導いていきたいですね。

岡本… 手厚いサポートでは、どこにも負けない。そんな理大の教職支援に、これからもご期待ください。

【PERSON】在学生

理大'S View

2016年度、5番目の学部として理大教育学部が開設されて間もなく4年目。小学校教諭を目指す初等教育学科1期生たちは教育実習を終え、中等教育学科(国語教育コース・英語教育コース)も初夏には教育実習がスタート。もうすぐ巣立ちの年を迎えます。そんな中から初等教育学科3年の林将孝さんと川口琴音さんに、教育実習の感想や目指す教員像などを聞きました。



初等教育学科3年
林将孝さん

親しみやすく、何でも相談できる。
そんな先生を目指して。

7歳上の兄が理学部応用数学科の卒業生で、兵庫県内の中学教諭。その兄から勧められたのと、「岡山は住みやすい」というのを聞いて、理大に入りました。「その通りでした。岡山は自転車でもどこでも行けますから」。元気がいいの笑顔で即答してくれました。

兵庫県立八鹿高校出身。教員免許取得に必要なの教育実習は10月1日〜26日、母校の兵庫県養父市立の小学校で行いました。全校で32人、2・3年生は複式という規模です。「僕がいたころは今の2倍以上いたんですけど……」とちょっと寂しげです。とはいえ、所帯が小さいだけに皆が家族のような雰囲気だったそうです。

林さんは8人の5年生を担当し、国語と算数、道徳を教えました。「僕が困ったようなそぶりを見せると、次々に児童が発表してくれる。子どもたちに助けられたような感じでした」と苦笑交じり。「でも、全員が手を挙げると、どの子

まで当てて次に進むか、ちょっと難しい。それと、あまり違う意見が出てこないのが意外でした。「もっと別の意見を」と注文するほどでした。「言葉遣いや板書でも悩みました。「言葉を選ぶのが難しい。この言い方で伝わるかなと。質問を違う言い方ですると混乱するので、こちらががみ砕いて説明しないといけない。端的に分かりやすくするには、どうやって言えばいいか。板書もどうしたら分かりやすいかなと」

実習を終えて、指導教員からは「ここは小規模校なので、一人分からなくても、その子に対して指導ができるが、大人数になったらそれは難しい。子どもが一人で乗り越える力を身に付けさせることが大切」と説明を受け、「教え過ぎるのもよくない、構い過ぎるのも良くない」とアドバイスを受けました。

4年生になったら、学校支援のボランティアに取り組み、さまざまな現場で実践経験を積むこ

とにしているそうです。
1期生としての3年間については、「先輩がいないので、ゼミの課題対策や教員採用試験対策でどんな参考書がいいとか、全く分からず手探りです。でも、自分たちが好きなようにできたのは良かった」と振り返ります。特に2年の時の体験型授業「探究ゼミ」では、小学校の放課後クラブで学科メンバーと一緒に、童話「十二支の始まり」の演劇を上演。林さんはネコ役で、「大受けでした。やっている方も楽しかった」と懐かしそうに語ります。

「児童にとって親しみやすく、何でも相談できるような先生になりたいです。子どもが大好きなので。また笑顔が弾けました。」



「子どもたち一人一人のよさをしっかりと引き出せる教師になりたいし、子どもたち同士でも、よさが互いに認め合えるような学級がつくれる先生になりたいんです」

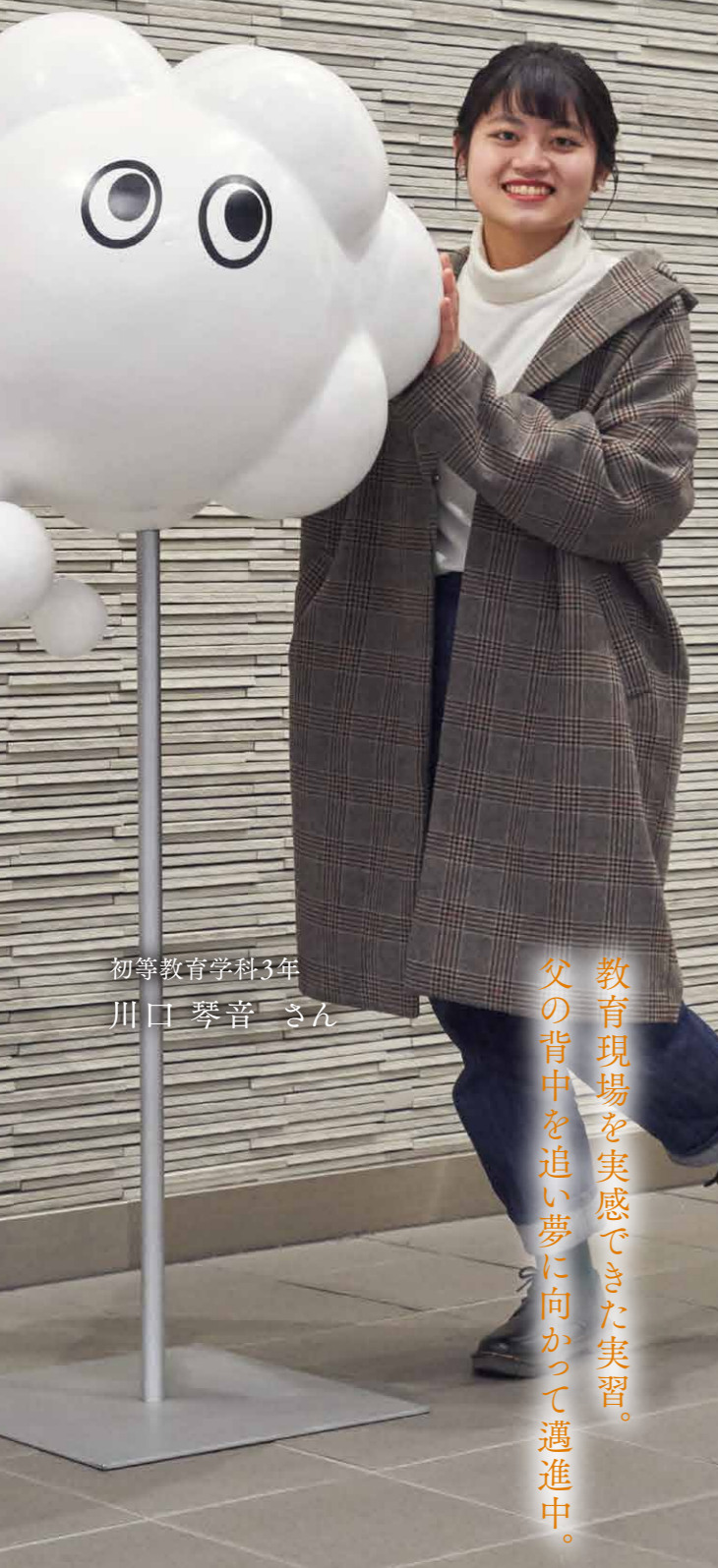
大きな目を輝かせて話す川口さん。愛媛県立三島高校出身、理大に入ったのは「1期生なので、いろんなことが初めてという環境。そんな中に自分自身、ちょっと踏み込んでみようかなという感じで」。落ち着いた口調で話してくれました。そもそも教師を目指したのは、「父が中学校

の音楽の先生で、生徒たちと触れ合う中で感動したことなどをずっと聞いていたので、すごく魅力を感じていた」からだそうです。
教育実習は昨年10月1日〜26日、岡山市内の



小学校で、4年生のクラスを受け持ちました。算数から国語、社会、体育、音楽の授業を行いました。「いつも新しい発見がありました。大学で学んだ目線とは違う子どもたちの捉え方ということがありました。実際に大学で学んだことを実践してみても、子どもたちからどうという反応が返ってくるか、ということも学べました」と言い、「それに、学校の先生たちの取り組みを見たり聞いたりできたので、とても充実していました」と笑顔で話します。

ある時、二人の児童の様子が普段と違いました。心配になって、それぞれから話を聞くと、互いのやり取りを巡る勘違いが理由でした。「あの子はこういうつもりだったらしいんだけど、あなたにはそう見えただね。納得できたら仲直りする？」と諭すと、また元通りに一緒に遊ぶようになっていました。後で、指導教員に相談すると、「その対応でいいと思います」としながらも、教育現場ではさまざまな事態が起こり得ることも教えてくれました。
「大人からすると、本当にささいなことでも、子どもにとってはすごく大きいことがあるんだなと思いました。とても勉強になりました」
実習を経て、さらに成長した川口さん。きっと児童の笑顔が絶えないクラスになることでしょう。



初等教育学科3年
川口琴音さん

教育現場を実感できた実習。
父の背中を追い夢に向かって邁進中。

【PERSON】卒業生

理大'S View

今回は歌手の中村ヒロキさんと、入館者が1万人を突破した理大の人気施設「恐竜学博物館」の専属学芸員、奥田ゆうさんに登場してもらいました。

歌手
中村 ヒロキ(啓貴) さん
2011年・理学部応用数学科卒業



出発点は理大時代の路上ライブ。 第2の故郷で夢を追い続ける。

岡山で最大の音楽ホール「岡山シンフォニーホール」。今年1月12日、中村さんは5年間の音楽活動の集大成として、ここでワンマンコンサートを開きました。大ホールは2000人近い客で埋まり、暗闇の中でカクテル光線が中村さんを照らし出します。トークを交えながら、透き通った声で一曲ずつ丁寧に歌い上げる姿に、拍手と歓声がやみませんでした。

「音楽活動を始めたのは大学3年の時、アルバイト先の先輩に誘われて、岡山駅近くで路上ライブをやったからです。それまで音楽とは無縁でしたが、やってみたら意外に楽しくて」。当時は人気デュオ「ゴブクロ」の歌をカバーしていました。

宮崎県都城市出身。倉敷市に親戚がいるのと、数学の教員免許を取ったため理大に進学。「教職を取っていたし、アルバイトもしていたので両立が大変でしたが、4年間で成長させてもらったと思います。素晴らしい恩師とも出会えました」

卒業後、岡山市役所で勤務したものの、歌手への思いが断ち切れず上京して活動。そんな中、知人の紹介で岡山市にある音楽事務所(オフィス・モモジロウ)に入り、再び岡山で活動をスタート。2014年1月にCDを発売して全国デビューしました。

その後、岡山、宮崎、韓国でコンサートを開催。地元テレビ局のレギュラー番組にも出演し、テレビCMにも楽曲を提供してきました。中村さんが作詞、オフィス・モモジロウの古城洋次社長が作曲しています。

「夢だった」シンフォニーホールでのコンサートを終えて、「これまでは、ざっくりと幅広い人に聴いてもらえたら、というイメージでやってきまし

たが、これからはターゲットを絞って、働いている人に訴えかける曲とか、卒業シーズン、クリスマスシーズンに聴いてもらいたい曲といった、ピンポイントで絞った曲もつくっていきたくと思っています。ずっと人の心の中に残って、歌い継がれていくような曲が目標です」

岡山で生まれた縁。「理大に進んでいなかったら今の自分はありません。僕なりに必死にここで生活してきた、見えてくる未来は変わってきました。一生懸命やったら、その先にいい景色があります。だから現役の学生の皆さんには一生懸命頑張ってくださいと言いたい。それと人との出会いを大切にしてほしいと思います」。言葉を選びながらしっかりと口調でエールを送ってくれました。



恐竜学博物館・学芸員
奥田 ゆう さん
2013年・大学院総合情報研究科・
数理環境システム専攻修了
= 博士(学術)

恐竜たちを通して サイエンスの楽しさを感じ取って。

今年1月5日、昨年3月24日の開館以来、288日目外部入場者が1万人を突破した恐竜学博物館。恐竜に特化した大学博物館としては国内初で、コンセプトは「研究の現場がそのまま展示場」。全身骨格の展示をはじめ、モンゴルで採取した恐竜の骨の化石などをクリーンングする作業などを間近で見ることが出来ます。

1月12日にはサテライト展示の一つを大幅にリニューアルし、展示の迫力が増し、家族連れの子どもたちは大喜びです。

神奈川県立秦野高校出身。「生物と考古学が両方とも勉強できる」ことに注目し、生物地球学部生物地球学科の前身、総合情報学部生物地球システム学科に入学。3年次の人類学実習で「生物の骨格の美しさに強く魅かれて」大学院

に進学し、さらに骨格の研究に取り組みました。

「ヒトの耳の耳小骨は3つあって、うち2つは爬虫類の顎の骨と相同です。形態はちろん違いますが、神経支配を調べると分かります。進化の結果です。骨を見る時に進化も考えるのが比較解剖学で、これが専門です。本当に面白いですよ」。骨をみるには解剖が欠かせません。その上で「ここにはどんな筋肉がついて、この穴には血管とか神経が通る」と結局、骨だけではなく全部調べることになるんですよ」と屈託のない笑顔で浮かべて話します。恐竜も発掘された骨の化石から生体を推定していきます。

恐竜学博物館は、理大がモンゴル科学アカデミー古生物学地質学研究所と提携してゴビ砂漠で進めている発掘調査の成果を中心に、岡山キャンパスC2号館1階にメイン展示、C2号館3階とA1号館4階にサテライト展示を配置。恐竜関係の約7000点の収蔵資料のうち約1000点が見学できるようになっています。開館は原則として月曜日〜土曜日の午前10時〜午後4時45分。週末には親子連れを中心に約50人が訪れます。開館以来、奥田さんはここで解説員を務めます。

今年3月にはアジア最大の肉食恐竜とされる「タルボサウルス」の全身骨格(レプリカ、全長約10m、高さ約2.8m)の組み上げが完了し写真左上。恐竜展示の新たな目玉が誕生しました。さらにメイン展示室の大幅模様替えも予定されています。

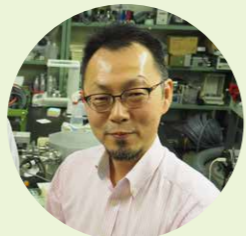
「恐竜に関心のある子どもたちは、まず図鑑を見てからやって来ます。でも本で見ると、実物の骨格を見るのは大違いで、必ず『すごい!大きい!』と驚きます。その驚きが科学の目を育てます。この経験をきっかけに恐竜だけでなく、地球上のいろんな生き物に興味をもってもらい、サイエンスの楽しさを感じ取ってもらえれば、こんなにうれしいことはありません。笑顔が一段と輝きを増します」。

2018年度 学長表彰の皆さん

教職員

中谷 達行 教授

大学院工学研究科機械システム工学専攻
物質の表面処理分野での業績を顕彰する「第11回岩木賞トライボロギングネットワークアワード」奨励賞を、大学院工学研究科電子工学専攻1年、福江紘幸さん、東京電子株式会社とともに受賞。第6回の事業賞に続いて岩木賞受賞は2回目。



片山 謙吾 教授

工学部情報工学科
2004年〜2018年にわたり、研究指導した延べ17人の学生が「情報科学技術フォーラム奨励賞」「電子情報通信学会中国支部奨励賞」「電気学会優秀論文発表賞」など15件の賞を受けるなど業績が顕著。



江面 嗣人 教授

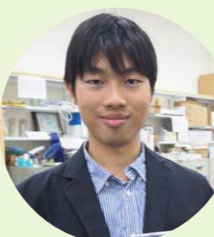
工学部建築学科
全国の文化財保護の審議会等の委員・会長を歴任。中国を中心に30以上の自治体に建造物の保存・修復、町づくりの指導的立場で関わり、ブータン、フィジーでも伝統的建造物の調査・修復で活躍し、専門家の育成にも貢献。



学生

橋本 力 さん

教育学部初等教育学科3年
図書館が提供したサービス（フレックスサービス）が、地域活性化に結びついた事例を表彰する2018年度の「地方創生レファレンス大賞（同実行委主催）の審査員特別賞を、岡山県立図書館とともに受賞。



フォーミュラプロジェクト（自動車部）
代表・宇那木圭太さん
（工学部機械システム工学科3年）

2018年9月の「第16回全日本学生フォーミュラ大会」で、見事完走を果たして出場100チーム中、総合成績32位。ラップタイムは2位、走行性能などを競うエンデュランスでは5位と大健闘。



福江 紘幸 さん

大学院工学研究科電子工学専攻1年
中谷教授らとともに第11回岩木賞を受賞。高品質な表面処理を施すのに必要なプラズマ発生装置の電源を開発。「今後はプラズマの性質や薄膜の特性などを解明していきたい」と新たな研究テーマに意欲。



マスコミ情報を読み解き、自分で判断する力を培う

デジタルメディアアコースを全面刷新
メディアリテラシー分野を大幅に強化

マスコミやネット上で溢れかえる情報をどう取り込んで、どう咀嚼していけばいいのか、そして、その情報を自分の生活にどう反映させていけばいいのか。岡山理科大学は2019年4月、総合情報学部情報科学科のデジタルメディアアコースをリニューアルし、こうしたニーズに応えるカリキュラムを編制しました。

新設する科目は4つ。山陽新聞とRSK山陽放送の寄付講座として実施し、1年次では「ニュース理解A」「ニュース理解B」で、新聞・雑誌などの活字ニュースとテレビなど映像ニュースを「より深く、より広い視点で理解」します。続いて3年次には、倫理観を持つための「メディアリテラシー」を新設。4年次の「デジタルメディアII」ではテレビ局、新聞社の実習を各5回実施。生の現場の雰囲気味わうとともに、ニュース発信にも携わっていきます。

従来からの「プレゼンテーション基礎論」「情報関連法学」「情報社会論」などは、教育体制をさらに充実させていきます。

多様化していくメディア情勢の中で、情報洪水に流されることがなく、自らの羅針盤を確立し、自らの判断で情報を活用していく。そんな人材を育てていくのが目標です。

4月
April

4月3日
入学宣誓式
(岡山/今治)



4月4日
新入生
オリエンテーション
4月5日〜7日
1年次宿泊等研修



4月8日
在学生
オリエンテーション

4月9日
春1学期開始
(〜6月12日)



4月30日
学園創立者の日

5月
May

5月1日
改元記念日

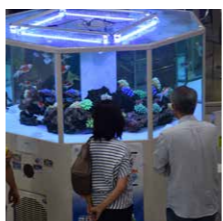
5月4日
学園創立記念日
5月11日・12日
皐月祭(岡山)



6月
June

6月13日
春2学期開始
(〜8月9日)

6月23日
オープンキャンパス
(岡山/今治)



7月
July

7月5日
七夕エコナイト
(第1金曜日固定)



7月27日・28日
オープンキャンパス
(岡山)

8月
August

8月10日
夏季休業



8月25日
オープンキャンパス
(今治)



9月
September

9月8日
教育・進路懇談会
(本学会場)

9月10日
学位記授与式
入学宣誓式(秋)

9月11日
秋1学期開始
(〜11月25日)

9月14日・15日
教育・進路懇談会
(地方会場)

